



うじいえ 自然に親しむ会

会報誌 第23号

令和3年4月18日
(2021年)



ごあいさつ

会員の皆様、令和2年度中は大変お世話になりました。会報誌第22号でもお伝えしたとおり、新型コロナウイルスの猛威により、本会の事業のほとんどを中止せざるを得ない事態になったことに対しては、残念の一言に尽きます。ミヤコグサ第1・第2管理地、氏家大橋上流カワノギク保全地、サッカー場西側礫河原保全地の除草は、少数の参加者と新規に結成した「しなだれバスターズ」による機械除草で何とか維持されました。



また、昨年5月に予定していた総会を開催できなかったことで活動費が厳しくなると思いきや、多くの会員の方々がミュージアムを訪れ、納入していただいたこと、大変有り難く、深く御礼申し上げます。さらに、氏家ロータリークラブや様々な方々からの寄付金もいただき、今後の活動の充実を図るための力にさせていただきます。



まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況ではありますが、今年度の活動を別添の活動計画のように、感染防止対策を徹底したうえで野外を主としたものとして実施していきたいと思っております。

状況は決して楽観視できるものではありませんので、皆様におかれましては、ご健康に留意していただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

令和3年4月18日

うじいえ自然に親しむ会

会長 高橋 伸拓



新型コロナウイルスに振り回された一年を振り返る

「もしかして、総会も開催できないのかな？」情報が錯綜する中、世間の動きを見ていくと、とても開催出来る状況ではないとすぐに理解できました。初め、夏くらいからは、野外の活動は再開しようと考えていたものの、状況は悪化の一途をたどり、年度内の管理作業以外、すべてのイベントを停止することとしました。そういった中、市内小学校が1校（加藤参与担当）、中学校が1校（高橋会長担当）で出前授業を実施できました。

活動自粛の動きとは別に整備計画の検討や、委員会への対応が続きました。勝山公園やお丸山公園の再整備の検討や、都市計画マスタープラン策定委員会への対応等、様々な動きに対応しました。

本会のDVDが完成し、県内全ての小中学校への配布、中村先生著の「シルビアものがたり」の関係機関への配布、とちぎテレビへの出演、Facebook や YouTube による情報発信、宇都宮市環境保全課主催の観察会の講師、サシバの里自然学校への支援など、コロナ禍においても多くの方々と活動できました。



「U字工事の旅！発見」への出演



保全地と動植物のいま

【ミヤコグサ第1管理地・第2管理地】

2019年10月の台風19号で冠水の被害を受けた「ミヤコグサ第1管理地」は、周辺のハリエンジュやオニグルミを国交省下館河川事務所に伐採していただき、本来の姿に戻りました。また、保全地のエリアを少し移動する措置を施しました。ミヤコグサも順調に増えてきており、今後は種の採集を進めて繁茂実験を行いたいと思います。

カワラノギクの保全地「第2管理地」は、順調に維持できており、多くの開花がみられました。



ミヤコグサ第1管理地の状況

【氏家大橋上流カワラノギク保全地】

幸い、2019年10月の台風19号で冠水せず、状況は維持されています。保全地周辺に繁茂したシナダレスズメガヤやススキを抑制するため、「しなだれバスターズ」による機械除草を実施しました。本年度のカワラノギクの開花が少なかったことから、種まき量を増やしたいと考えています。



氏家大橋上流カワラノギク保全地の状況

【サッカー場西側礫河原保全地】

残念ながら、多くの草本に負けてミヤコグサは減少の一途を辿っています。シナダレスズメガヤやススキ、クズなどを除去するため、「しなだれバスターズ」による機械除草を行いました。



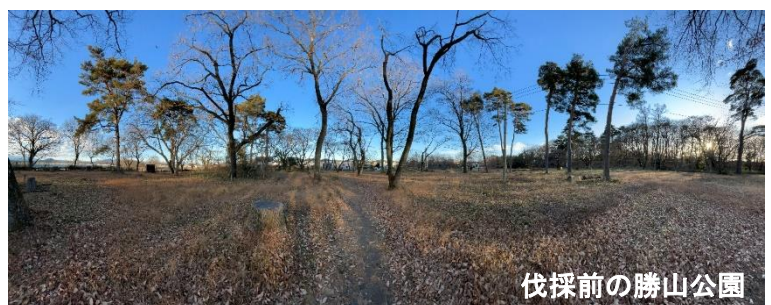
保全地での除草作業



一気に変わる勝山城址と勝山公園

桜の樹齢が高くなってきた勝山公園では、枝の落下や倒木に加え、天狗巢病の発生が多くみられてきました。

基本的には、勝山城址を除く勝山公園内に自生する大きな木は全て伐採するとのことでした。ただ、立派なアカマツが多数みられますので、それだけは残していただきました。今後は、様々な種類の桜を見本園として植え、新たな桜の名所にするとのことです。また、水辺も設ける計画で、自然の水たまりなどを造成する予定です。アズマヒキガエルなどの産卵地になることも期待できます。公園内の安全確保と自然環境保全の両立は難しいものです。これまで見慣れた勝山公園の状況が一変し、寂しい気持ちは当然ありますが、今後どのような桜の名所やピオトープになっていくのか、状況を見守りたいと思います。



伐採前の勝山公園



伐採後の勝山公園



シルビアシジミをはじめとする希少種の生息状況

本年度、シルビアシジミは、多くの成虫・幼虫の確認ができました。さらにミヤマシジミも多く確認できました。これは、食草のコマツナギが多くなりつつあることが要因と思われます。ツマグロキチョウも至る所でみられました（食草：カワラケツメイ）。



シルビアシジミ



シルビアシジミ（幼虫）



ミヤマシジミ



ツマグロキチョウ

編集後記「いい時代だったな」

自然災害や各種ウイルス等、様々な困難が次から次へと襲い掛かってくる現代。そのような状況下において、私（40歳代）以上の年代の方々からの回顧として「あの頃はいい時代だったな」といった会話をすることがあります。しかし、今の若い世代にとって、「いい時代」を思い出せる時が来るのか、と感じることがあります。

我慢に我慢を重ねる生活、外で思い切り遊べない、自然とのつながりが断たれる、対面での人とのつながりの断絶、等々、我々でも強いストレスを受ける状況を子供時代から経験することの苦痛はいかほどか。

そのような中、うじいえ自然に親しむ会のイベントへ参加していただける若い世代、とくに子ども達の輝くような目を見ると、感心するとともに勇気が湧いてきます。今年度も可能な限りの感染対策を実施することでイベントを開催していきたいと考えています。